

愛の質的研究Ⅱ

河野直子(三重)・清野雅子(千葉)

要旨:本研究は、「愛の質的研究」^[1]の続編の研究である。「愛の質的研究」で、聴きとったままのテキストに、A:身体的行為(身)か、言語的行為(口)か B:楽しいこと(レベル1)か、仕事(レベル2)か、困難なこと(レベル3)か C:一方だけが行為する(単)か、双方がする行為(双)か、というABCのラティス(格子)をかけて、インフォーマントの個性を抽出し、樹のグラフにするという分析方法は、夫婦間、親子間ともに見通しがついた。今回は、インフォーマントの人数を増やし、愛を感じるだけでなくトラブルが起こる場合も聞き取り、注目の仕方に違いがでるかどうかが、また早期回想を聞き取り、ライフスタイルとの関連が明確になるかどうかについての研究を進めた。

結果は、このラティスを使ったことによって、前回同様、男女間の違いなどグループごとの傾向がみえてきたとともに、ひとりひとりのインフォーマントの個性がさらにはっきりした。愛を感じる時ばかりでなくトラブルを感じる時、早期回想をききとることによって、個人について同じパターンで繰り返す冗長性がみえてきた。

キーワード: アドラー心理学、理論、質的研究、愛、夫婦、親子

1. はじめに

本研究は「愛の質的研究」^[1]の続編の研究である。前回の研究で探し出すことができたラティス(格子)を用い、インフォーマントの数を増やして、さらに調査した。また、以下の5点の課題に留意して、引き続き研究を行った。

①男性のインフォーマントのデータを増やして、男女間の違いがわかるような調査を続ける。(親子間の課題)

「男女間の違い」というのは、例えば、前回の研究結果から夫婦間では、女性は楽しいこと(レベル1)に、男性は仕事(レベル2)や困難なこと(レベル3)に注目する傾向がみられた^[2]、というような傾向のことである。

②インフォーマントと、子ども男女の組み合わせで、注目の仕方に違いがでるかどうかが。(親子間の課題)

「注目の仕方」というのは、例えば、前回の研究結果から子どもが女の子である場合に、言語的行為に対しての注目が多くなる傾向がみられる^[3]、というようにインフォーマントが相手の何を気にしているか、ということである。

③同じインフォーマントでの「型」のありようは、夫婦間の時と、親子間で違いがでるかどうかが。

「型」というのは、インフォーマントの語りをラティスを通した結果が、例えば、「身2双」

型、というようなことである。

- ④愛を感じる時だけではなく、トラブルが起る時も聞きとると、例えば、愛を感じる時は「楽しいこと」に注目して語るが、トラブルが起る時は「仕事」に注目して語る、というように、場面によって注目の仕方に違いがでるかどうか。
- ⑤早期回想を聞きとると、ライフスタイルとの関連がより明確になるかどうか。

2. 研究の目的

実際に人々から聞きとったテキストを元にして、聞き取ったままのテキストにラティスをかけて、その人の「語り」の特徴を抽出する。

わかりやすい樹のグラフにし、そのグラフから、平均的な日本人アドレリアン夫婦、あるいは親子が、どういう場合に相互の間に愛情を感じるかについての特徴をみていく。また、その樹のグラフから、インフォーマントの個性が的確に描写できているかどうかを振り返ってみる。

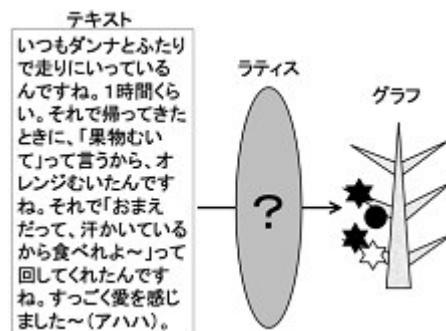


図 1

3. 研究方法

3 - 1 夫婦間

今年は、夫婦間の調査では、結婚して5年以上の、30人のインフォーマント（うち女性16人、男性14人）から、聞き取りを行った。

インタビューの質問は、昨年5つの質問に加え、トラブルのときと早期回想を聞く2つの質問を合わせて7つの質問とした。

- 1) 「夫（妻）さんから、愛されているな～とか、大切にされているな～とか、思いやってもらっているな～と、そんな風を感じる時があると思うのですが、どんな時ですか？」
- 2) 「こんどは逆に、〇〇さんが、夫（妻）さんを、愛しているな～、大切だな～と、そんな風を感じる時は、どんな時ですか？」
- 3) 「昔にかえっていただいて、初めて夫（妻）さんと出会われた時の、場面とか出来事を、さしつかえなければお話していただけますか？」
- 4) 「では、この人と付き合いたいな～、付き合おう～と思った、場面とか出来事をお話していただけますか？」

- 5) 「この人と結婚しよう～、一緒にやっ払いこう～と決めた、場面とか出来事をお話していただけますか？」
- 6) 「長年一緒に暮らしておられると、ギクシャクする場面や、マイナス感情を感じる場面もあるかと思うのですが、たとえば、どんな場面ですか？」
- 7) 「10歳くらいまでの、感情を伴う、ある日ある時の出来事を教えていただけますか？」

これら7つの質問について、質問者の興味・関心などの認知が入る質問は控え、インフォーマントに出来るだけ自由に語ってもらった。そして、インフォーマントの了解を得て録音したものを、文字におこして研究材料にした。

3 - 2 親子間

昨年同様、小中学生の子どもを持つ21人のインフォーマント（うち女性16人、男性5人）から、聞き取りを行った。子どもを複数持っている場合はその中のひとりについて質問した。子どもの年齢は8歳から15歳、男の子13人、女の子8人だった。

具体的には昨年の4つの質問に加え、トラブルのときと早期回想を聞く質問を合わせて7つの質問に答えてもらった。

- 1) 「お子さんのことをすっごく大切に思っているなあとか、私この子のこと大好きだなあとか感じる事があると思うんですが、どんな時ですか？」
- 2) 「では逆にお子さんがこの子って私のこと大好きだろうな、大切に思ってくれているな、って感じるときはどんな時ですか？」
- 3) 「お子さんのことを嫌だなあ、と思うようなこともあると思うのですが、それはどんな時ですか？」
- 4) 「お子さんがあなたのことを嫌だなあ、って感じているだろうな、という時はどんな時ですか？」
- 5) 「お子さんが生まれてきた時、初めてご対面したときでもいいのですが、どんなふうでしたか？」
- 6) 「生まれてから小学校へ入るくらいまでで、印象に残っている事をお話していただけますか？」
- 7) 「あなたの早期回想をお話ください。」

以上の7つの質問を軸に20分から30分程度個別に聞き取りを行った。夫婦間と同様に、質問者の興味・関心などの認知が入る質問は控え、インフォーマントに出来るだけ自由に語ってもらった。そして、インフォーマントの了解を得て録音したものを、文字におこして研究材料にした。

4. 分析法

文字におこした全文章から、どういう場合に相手を愛していると感じるか、あるいは相手に愛されていると感じるかを具体的に述べた文について、以下のABCのラティスにかけて評価し、インフォーマントの語りの特徴を抽出した。

A：身体的行為（身）か言語的行為（口）か。

B：楽しいこと（レベル1）か、仕事（レベル2）か、困難なこと（レベル3）か。

C：一方だけが行為するか（単）、双方が行為するか（双）。

補足だが、Aの「身体的行為」は、話をしているもしてなくても行為する場合、「言語的行為」は、話をするだけで行為の伴わない場合を言う。

5. 結果

夫婦間、親子間とも、全インフォーマントの語りについて、それぞれ ABC のラティスをかけて、特徴を抽出した。集計表をもとに、各インフォーマントの特徴を樹の図にまとめた。



図 2

5 - 1 夫婦間

結果として、次のような傾向がみられた。

結果① 男性は身体的行為に注目する傾向がみられる。

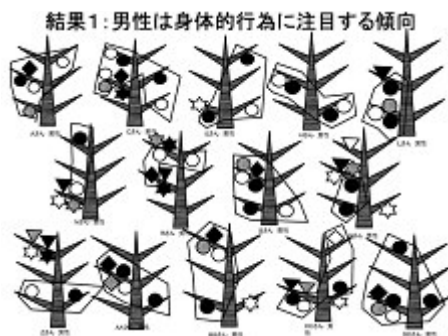


図 3



図 4

インフォーマントの数は 30 名に増えたが、「愛の質的研究」の結果^[2]と同じ傾向がみられた。

結果② 女性はレベル 1（楽しいこと）、男性はレベル 2 以上（仕事・困難なこと）に注目する傾向がみられる。

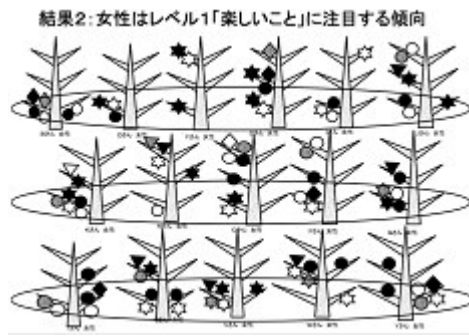


図 5

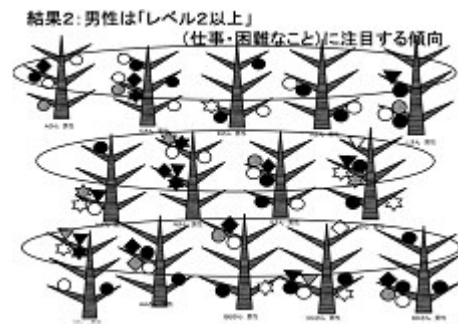


図 6

インフォーマントの数は 30 名に増えたが、「愛の質的研究」の結果^[2]と同じ傾向がみられた。

結果③ 男性は双方向（双方が行為する）に注目する傾向がみられる。（図 7）



図 7

インフォーマントの数は 30 名に増えたが、「愛の質的研究」の結果^[2]と同じ傾向がみられた。

結果④ 同じ枝に、実や花が集まって並ぶ傾向がある。つまり、「愛を感じる時（現在または過去、あるいはその両方）、トラブルの時、早期回想は、同じ枝に並ぶ傾向がみられる。

- 7つの質問すべてについて話してもらえた、25名のインフォーマントのうち、17名が、「愛を感じる時、トラブルの時、早期回想」がそろって、同じ枝に並ぶ結果となった。



図 8

- 残り 8名のインフォーマントについても、「愛を感じる時とトラブルのとき」、あるいは、「愛

を感じる」ときと早期回想」の組み合わせで、同じ枝に並ぶ傾向があった。

結果4: ばらばらの枝に花や実が並ぶときも、「愛を感じる」ときと「トラブルのとき」、あるいは、「愛を感じる」ときと「早期回想」の組み合わせで、同じ枝に並ぶ傾向がある。

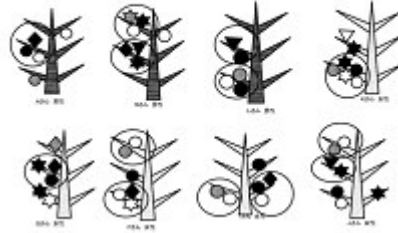


図 9

5 - 2 親子間

結果として、次のような傾向がみられた。

結果① 男性より女性のほうが双方向の行為がある人が多い。

結果1 男性より女性のほうが双方向の行為がある人が多い

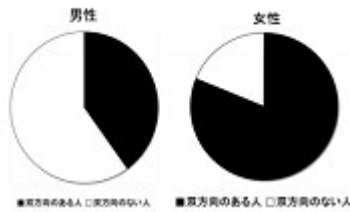


図10

双方向のある人とない人を男女別に見てみると、双方向のある人は男性インフォーマント、つまり父親の 40 %、女性インフォーマント、つまり母親の 81 %と、母親のほうが多い。これは夫婦間の結果とは相反するものになっている。子どもとの関わりは、父親よりも母親と一緒に話す、何かを一緒にする、ということが多いと言えそうである。

結果② 全員がレベル1に注目している。

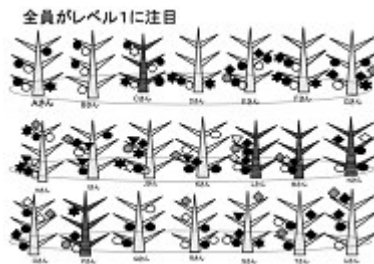


図11

全員が子どもの誕生の時にレベル 1（楽しいこと）に注目している。子どもの誕生は全イン

フォーマントにとって愛情を感じる時であった。

現在社会において子どもの虐待、殺害は大きな問題になっている。子どもの誕生に愛情を感じているということは、現在の子育てにおいて悪くはない親子関係であるということだろう。そして、インフォーマントの多くは子育てプログラム『パセージ』を受講し、続けてアドラー心理学を学び続けているのだろう。

また、女性にとっては出産時に喜びを感じながらも育児不安を感じているインフォーマントも多く見られた。男性は家族の一員として、子どもの誕生をみているインフォーマントも複数みられた。お乳を与えたり、おむつを替えたり、出産が終わるとすぐに育児に向き合うことになる母親と、先祖から引き継がれた「家」を思う父親、男女間の違いが見られた。

結果③ 子どもの成長を感じる時は、次の2つに大きく分かれた。

- 親に相談しないで自力で問題を解決する姿に成長、愛情を感じている。
(単方向の身体的行為)
- 親と一緒に仕事をする、一緒に困難を解決することで、子どもの成長を感じたり、愛情を感じたりしている。
(双方向の身体的行為)

結果④ インフォーマントと子どもの男女の組み合わせで、注目の仕方に共通の傾向が出るというより、人それぞれの個性が表れている。

前回調査のあとに、インフォーマントと子どもの男女の組み合わせで注目の仕方に共通の傾向が表れるのではないかという予想のもと、研究課題を立てた。今回の調査においても男性インフォーマントの数が女性インフォーマントに比べて少なくはあったが、どの組み合わせに関しても傾向というものを見つけることはできず、それよりもその人その人の個性が出ている、という印象を持った。

結果⑤ 夫婦間、親子間、同じインフォーマントからは 同じパターンの傾向が見られる。

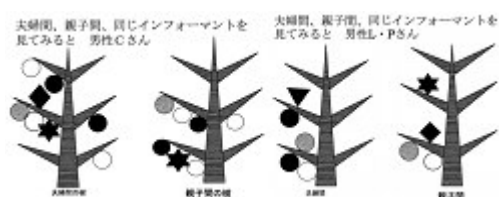


図12

夫婦間、親子間、のインタビューに応じてくださったインフォーマントは二人であった。その二人に関してはそれぞれ、特有の個性が表れている。

6. 考察

6 - 1 夫婦間

- ①インフォーマントひとりひとりの個性について。
- ②ある夫婦の愛について。

「男性は身体的行為に注目する傾向」、「女性は楽しいことに注目し、男性は仕事・困難なことに注目する傾向」、「男性は双方向に注目する傾向」という、男女差が描き出せたことは、ラティスを使うことで、ひとりひとりのインフォーマントの個性が見えやすく描きだせた結果だと考える。しかしひとりひとりのインフォーマントの個性を見ていくと、身体的行為に注目する傾向の女性もいれば、言語的行為に注目する傾向の男性もいる。困難なことに注目する女性もいる。

アドラー心理学は、個性記述的な心理学であるので、男性がどうであり、女性がどうである、といった集団の傾向よりも、関心はむしろ、個人の傾向のほうにある。今回の考察は、結果④の考察に焦点をあてる。

ラティスを使うことで、インフォーマントひとりひとりの個性が、どんな風に見えやすく描き出しているかということ、を、「愛を感じる時、陰性感情を感じる時、早期回想」がそろって同じ枝に並ぶ傾向があるインフォーマント 17 名のなかから (図 8)、個人をとりあげて、具体的に考えていく。

その後、ある夫婦の愛について考える。

- ①インフォーマントひとりひとりの個性について。

- Cさん (男性) の場合

Cさん (男性) は、全体として、身体的行為・仕事・単方向に、より注目して語る特徴がある。

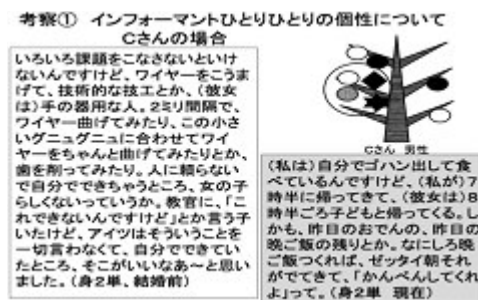


図13

左のカッコ内の語りは、「Cさんが妻さんに初めて出会われたときの場面とか出来事を教えていただけますか？」という質問に対しての話の一部である。

場面は、歯科大学のインターン時代、技術者養成コースで 訓練を朝から晩までうけている場面である。

いろいろ課題をこなさないといけないんですけど、ワイヤーをこうまげて、技術的な技工とか、(彼女は)手の器用な人。2ミリ間隔で、ワイヤー曲げてみたり、この小さいグニュグニュに合わせてワイヤーをちゃんと曲げてみたりとか、歯を削ってみたり。人に頼らないで自分でできちゃうところ、女の子らしくないっていうか。教官に「これできないんですけど」とか言う子いたけど、アイツはそういうことを一切言わなくて、自分でできていたところ、そこがいいなあ～と思いました。

というように、一切人に頼らないで、技術的な課題ができていたという、妻の行為を見て、愛を感じている。

次に右のカッコ内語りは、最近の、Cさんが陰性感情を感じた、家での場面である。

(私は) 自分でゴハン出して食べているんですけど、(私が) 7時半に帰ってきて、(彼女は) 8時半ごろ子どもと帰ってくる。しかも、昨日(きのう)のおでんの、昨日(きのう)の晩ご飯の残りとか。なにしろ晩ご飯つくれば、ゼツタイ朝それがでてきて、「かんべんしてくれよ」って。

「ぜんぜん家事ができていなかった」妻の行為について陰性感情を感じ、その後、妻は黙っており、Cさんが「一方的に怒った」という語りである。

このように、愛を感じる時と陰性感情を感じる時の注目の仕方は、どちらも身体的行為・仕事・単方向の傾向がみられた。

早期回想との一致について、見てみる。

考察①インフォーマントひとりひとりの個性について
Cさんの場合、早期回想との一致

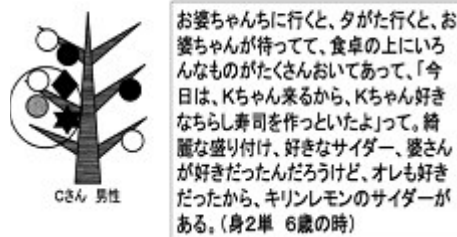


図14

お婆ちゃんちに行くと、夕がた行くと、お婆ちゃんが待ってて、食卓の上になんなものがたくさんおいてあって、「今日は、Cちゃん来るから、Cちゃん好きなちらし寿司を作っといたよ」って。綺麗な盛り付け、好きなサイダー、婆さんが好きだったんだらうけど、オレも好きだったから、キリンレモンのサイダーがある。

料理を作ってくれた、お婆ちゃんの行為に注目して、ありがたい、うれしいという陽性感情を感じる早期回想である。

妻に初めてであって「いいなあ〜と思った」とき、現在の陰性感情を感じる時、早期回想と、Cさんの3つの語りに共通して、職人的な観点からの「仕事をしてあげる/仕事をしてくれる」という行為に関心があり、「ひとりで行為する」単方向に多く注目して語る傾向がみられた。これは、Cさんのライフスタイルの大きな幹の1つだと言えそうである。

• Xさん(男性)の場合 (図15)

同じ「仕事」「単方向」の枝でも、身体的行為に注目するCさんと、言語的行為に注目するXさんとは、語り方に違いがあるのが興味深い。

左のカッコ内は、「この人と結婚しよう～、一緒にやっ払いこう～と決めた、場面とか出来事をお話していただけますか？」という質問に対しての話の一部である。

考察①インフォーマントひとりひとりの個性について
Xさんの場合

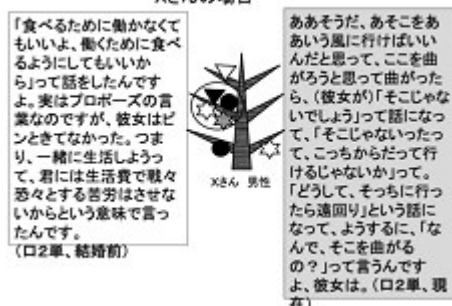


図15

「食べるために働かなくてもいいよ、働くために食べるようにしてもいいから」って話をしたんですよ。実はプロポーズの言葉なのですが、彼女はピンときてなかった。つまり、一緒に生活しようって、君には生活費で戦々恐々とする苦労はさせないからという意味で言ったんです。

プロポーズという結婚への課題について、言葉で伝えるという言語的行為に注目して語っている。

右のカッコ内は、最近Xさんが陰性感情を感じた語りの一部である。場面は、Xさんが主催した会合の帰り道、あるお店を探しているときの、運転中の場面である。

ある時ふと思い出して、ああそうだ、あそこをああい風に行けばいいんだと思って、ここを曲がろうと思って曲がったら、(彼女が)「そこじゃないでしょう」って話になって、「そこじゃないって、こっちからだって行けるじゃないか」って。「どうして？、そっちに行ったら遠回り」という話になって、ようするに、「なんで、そこを曲がるの？」って言うんですよ、彼女は。

「そこじゃないでしょう」「なんで、そこを曲がるの？」などの、妻から言われた言葉に注目して、陰性感情を感じている。

早期回想との一致をみしてみる。

Xさんの小学校低学年くらいの子どものとき、お母さんとの関係の早期回想である。

診察が終わって、帰りにトイレにいったかなんかで、手を洗って、石鹸をつけて手を洗って。「それじゃダメでしょう」って言われるの。いや、ちゃんと石鹸つけて、こっちは洗っているつもりなんだけど、「それじゃ綺麗にならない」って言われるの。で、よくわかんないんだ。3回くらいやるんだけど、違うって言われてさ、どうしてかって聞いたら、「それじゃちゃんと綺麗にならないよ」って。(中略)言われても言われても、わかんない、何が違うか、私は腹立ち

考察①インフォーマントひとりひとりの個性について
Xさんの場合、早期回想との一致



診察が終わって、裸りにトイレにいったかなんか、手を洗って、石鹸をつけて手を洗って。「それじゃダメでしょう」って言われるの。いや、ちゃんと石鹸つけて、こっちは洗っているつもりなんだけど、「それじゃ綺麗にならない」って言われるの。で、よくわかんないんだ。3回くらいやるんだけど、違うって言われてさ、どうしてかって聞いたら、「それじゃちゃんと綺麗にならないよ」って。(中略)言われても言われても、わかんない、何が違うか、私は腹立ち紛れなの。「だって、綺麗に洗っているよ」って言うてるのに、「違う」って。(口2単、小学校低学年くらいのとき)

図16

紛れなの。「だって、綺麗に洗っているよ」って言うてるのに、「違う」って。

Xさんが「ちゃんと」やっているとして理解している課題について、お母さんから、「それじゃダメでしょう」と否定と感じる言葉がくるときに、不思議さや、腹立ちの陰性感情を感じている。

結婚を決心した時、現在の陰性感情を感じる時、早期回想と、Xさんの3つの語りにも共通して、Xさんは、仕事や課題についての意味や論理に関心があり、「話をしてあげる／話をしてくれる」という、単方向の言語的行為に注目して語る傾向があることが見えてきた。この傾向は、Xさんのライフスタイルの、大きな幹のひとつだと言えそうである。

アドラーは、「谷間に生えている松を見れば、それが山の頂きにはえている松とは違ったふうにはえているのに気がつくでしょう。いずれも同じ種類の木、即ち、松ですが、二つの異なるライフスタイルがあるのです。木のライフスタイルとは、環境の中で自らを表現し、形作る木の個性のことです。(中略)人間の場合も、ほぼ同じことが言えます。私たちは、ある環境の条件の下で、ライフスタイルを見ます。」^[4]「子どもであれ、大人であれ、ある人のライフスタイルを見出したいのであれば、訴えを少し聞いた後で、早期回想を尋ね、それをその人が語った他の事実と比較することができます。大体において、ライフスタイルは変化しません。いつも同じパーソナリティを持った同じ統一体だからです。」^[5]と述べている。Cさん、Xさん個人を例に見てきたように、ラティスを使って分析し、樹のグラフにすることで、「いつも同じパーソナリティを持った同じ統一体」としての、「環境の中で自らを表現し、形作る」個人の個性をかなり見えやすく記述することができたと考える。

ただし、アドラーも、「私たちは、人間のタイプを重視しない、と言っておかねばなりません。私たちは、人間のタイプには関心ありません。なぜなら、あらゆる人間は、固有のライフスタイルを持っているからです。一本の木に全く同じ葉を二枚見つけることはできないように、全く同じ人を二人見つけることはできません。自然は非常に豊かであり、刺激、本能、誤りの可能性は非常に多いので、二人の人が全く同じということはありません。」^[6]と述べているように、筆者は、樹のグラフの結果だけを、個人のタイプとして見てはならないと考える。もしこの研究が実用化される日が来るのであれば、「ABCのラティスをかける」という方法で抽出されたインフォーマントの特性を、視覚的な樹のグラフ説明するというプロセス全体を、インフォーマントを裁く(judge)のではなく、インフォーマント個人をよりよく理解するための手段として使用してほしい。

②夫婦の愛について

ラティスを通してインフォーマントの語りをみていくことで、「尊敬」「信頼」「感謝」「協力」があらわれている夫婦のコミュニケーション、「相互の関心の中で一緒にワークする (synergy)」^[7]というコミュニケーションを多く垣間見ることができた。前述したXさん（男性）と、妻のYさん（女性）をとりあげ、夫婦の愛について、少し考察する。

考察② 夫婦の愛について

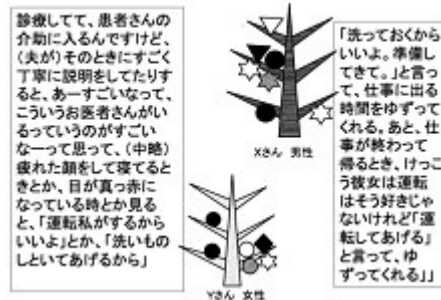


図17

妻のYさんは、全体として、視覚的にものごとを受けとめ感動し、感動を相手とわかりあったり、なにかしてあげたりする、「身体的行為・楽しいこと・双方向」に注目する傾向がある。

「どういうときに夫さんを愛していると感じますか？」という質問にたいして、妻のYさんは、

診療してて、患者さんの介助に入るんですけど、(夫が)そのときにすごく丁寧に説明をしたりすると、あーすごいなって、こういうお医者さんがいるっていうのがすごいなって思って、(中略) 疲れた顔をして寝てる時とか、目が真っ赤になっている時とか見ると、「運転私ができるからいいよ」とか、「洗いものしといてあげるから」とか、

と話してくれた。

別の場所でインタビューした夫のXさんは、「どういうときに、妻さんから愛されていると感じますか？」という質問に対して、

朝はけっこうバタバタしていて、彼女がけっこう気を使って、「洗っておくからいいよ。準備してきて。」と言って、仕事に出る時間をゆずってくれる。あと、仕事が終わって帰るとき、けっこう彼女は運転はそう好きじゃないけれど「運転してあげる」と言って、ゆずってくれる。

と話してくれた。

Yさんは、夫が患者さんに、言葉で丁寧に説明する行為を見て感動する。夫が疲れた顔をして寝てる、あるいは目が真っ赤になっているのを見て、大切にしたいと思ひ、夫の仕事をかわってあげる。Xさんは、妻の言葉に、「時間をゆずってくれる」という意味の愛を感じ、妻から譲ってもらった時間を自分の診療の仕事に使う。

夫婦が、愛を感じる同じできごとを、それぞれの個性で語ってくれたのが印象的だったとともに、こうした、よい循環のコミュニケーションが二人にはあることが見えた。実際に筆者が知っ

ている二人は、このように日々丁寧に、相手を尊敬し信頼し、相手に感謝し協力し暮らしている場面が多く見られる。

ラティスをかけることで、ひとりひとりのインフォーマントの個性が見えやすくなったおかげで、特定の夫婦のコミュニケーションの特徴も見えやすくなった。

6 - 2 親子間

①インフォーマントNさんについて。

②同じインフォーマントでの「型」のありようは「夫婦間」と「親子間」で違いがでるかについて。

親子間においては「男性より女性のほうが双方向の行為がある人が多い」という傾向がみられた。これはことばを変えると「父親より母親のほうが子どもとの双方向の行為がある人が多い」ということである。現在の日本の社会事情からすると、父親が家に不在がち、ということもあるかもしれない。日常の細々としたことは母親のほうが気がつく、ということもあるかもしれない。

そこでここではあえて、少数派の「双方向のある男性」Nさんについてみる。

また、前回の研究課題となった

•同じインフォーマントでの「型」のありようは「夫婦間」と「親子間」で違いがでるかについて。

二人のインフォーマントで考える。

①インフォーマントNさん（男性・息子）について

Nさん（男性）は、全体として、身体的行為・仕事・双方向に、より注目して語る傾向がある。子どもを愛していると感じる時の2場面、小さい頃の印象的な出来事、お子さんが小さかった頃陰性感情が起こった場面、早期回想、の5つの場面で双方向の実が付いている。

その中で一番実が多く付いているレベル2（仕事）を観察する。

「お子さんのことをすっごく大切に思っているなあとか、私この子のこと大好きだなあとか感じる事があると思うんですが、どんな時ですか？」という質問に対しての語りである。

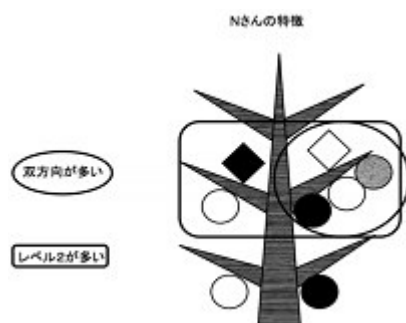


図18

家族4人で男の子（一人）で男同士だから男らしいところ、二人でできる。それが家族の役に立っているっていうか、それが、また嬉しいっていうか。

12月に明日雪が降るからスノータイヤに変えてくれて（奥さんに）言われたんですよ。じゃ、一緒に交換しようかって、最初は「寒いしヤダ！」って。（中略）

まあ、やってもらって結構やりだすとタイヤ運んだり、ぐるぐるナットまわしたりだとか、やってくれてすごく楽しいなあ、と思ったし、帰ったらうちの妻も喜んでくれたし、やっている最中は生き生きとやってました。ホント助かったんですよ。

これは、妻から頼まれたタイヤを変えるという仕事（レベル2）を、息子と二人で一緒にやった、という話である。はじめは、息子にやらせたい、という気持ちが強かったが、一緒にやっているうちに二人でやっていることが心から楽しく、息子も成長したことを実感された、と語ってくれた。

次に、陰性感情の場面をみしてみる。

印象に残っている良くない思い出は、と次のように語った。

1歳3ヶ月くらいの時に息子と二人でお風呂に入っていたんですよ。入浴剤を、その時はちょうどもらったのがあっていれて。で、私が一緒に入って出て、私がシャンプーしてたんですよ。で、息子つかまり立ちも立てるようになっていたから、立たせておいたんですよ。こうやって浴槽につかまって、で、入浴剤で下がツルツル滑りやすくなって、私シャンプーして一生懸命みがいてたら、わからなかったんですけど、足ツルツルと滑らせたいで、さっきまで声がぎゃーぎゃー聞こえてたのに、聞こえなくなったから、ウチの妻が急にガッと開けて。そしたらプカーッと浮かんですぐに抱っこして裏返して。妻にも怒られるし、娘にも「何してるの、パパ」って怒られるし。まあ良かったんですけどね、何事もなくて。

そういうちょっとできるかな、過信してしまっていたことがありました。

息子さんとお風呂に入っている場面で、まだ立っていること（ここでは父親の洗髪中にたっていること、を仕事レベルと考えた）が不安定である息子さんと、インフォーマント自身の失敗により、自分の父親としての仕事（レベル2）である、息子さんの安全確保ができなかったという双方向の出来事と考えた。

そして、「レベル2、双方向」に注目しているNさんの傾向は早期回想においても表れている。

小学校3年生の時、父親が3ヶ月単身赴任していて、母親と私と妹でアパートで暮らしていました。その父親がいない夜に、母親が「ぎゃー」と言うので行ってみると、「トカゲが家の中に入ってきたんよ。」と言って捕まえようとしていました。

私も網をもって来て、ダンスや編み機から時々出てくるトカゲを捕まえようとしたんです。なかなか捕まえられなかったんですが最後には壁つたいにトカゲを追って、窓から逃げてくれたので、みんなで大喜びした。

母親と一緒に、トカゲを捕まえるという双方向の仕事レベルに注目がある。

トカゲが捕まってお母さん、妹さん、ご本人みんなで喜んでいる、というところにNさんの語り口の特徴が出ていると思う。

早期回想と一緒に仕事をしていたのはお母さん、であるが、親子間のインタビューではそれが息子さんになり、おそらく夫婦間のインタビューをすればそれが奥さんになり、職場では、

同僚だったり部下だったり上司だったり、に変わって、日常を営んでおられるのではないかと推測される。

ベイトソン (G.Bateson) は「推測とは、一連の項目のシーケンスに入れられた切れ目の線、または遮蔽の幕を前にして、その向こう側に何があるかを言い当てることである。この幕は空間的なものである場合も時間的なものである場合も、同時にその両方である場合もある。時間的な幕も、未来をさえぎるものと過去を隠蔽するものがある。」^[8]と述べている。先の筆者の推測は、今回 3 つのラティスをかけることによって、その人の「型」、ベイトソンの言うところの「パターン」が観察できたことによる。ベイトソンは「まっすぐに立った木の上部を見れば、その木が地下に根を下ろしているだろうということは、ランダム以上の確率で言い当てることができる。」^[8]この例を借りれば、筆者に見えた N さんの木はお母さんと息子さんであり、根は奥さんであり、上司、同僚、部下である。（「地上の部分が地下の部分についての情報を含んでいるといっても許されるだろう。」）^[8]すなわち「冗長的」であるといえる。

今回の調査では親子で一緒に仕事をする姿というのが事例としても多く、その事例のどれもが、筆者の印象に残った。

一緒に仕事をするということは、親子が「仲間」であり、子どもに「私は能力がある」と思ってもらえる絶好の機会だとも思う。そこには親の子どもに対する「信頼」「尊敬」「感謝」がみられる。全体として子どもと母親との関わりが多いことが浮き上がった中で、N さんの父親としての息子さんへの働きかけ、というのは筆者にはとても感動的だったので取り上げさせていただいた。

②同じインフォーマントでの「型」のありようは「夫婦間」と「親子間」で違いがでるか、について

結果 5 - 2 ⑤に書いたように、今回「夫婦間」と「親子間」の両方にデータのあるインフォーマントは 2 人である。データ数は少ないが、樹の図を見てみると二人の違いがはっきりする。

C さん（男性・娘）は、仕事レベルである 2 番目の枝に実が多く付いていること、双方向にも実が付いていることが特徴といえる。

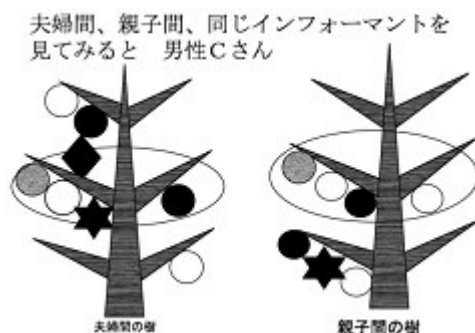


図19

夫婦間の樹の図に比べると、親子間のレベル 1 の実の付き方が多いが、これは、親子間のレベル 1 の枝においては全てのインフォーマントに実が付いていること、娘を持つ親の傾向として言語的行動が多いことも考慮すると、説明がつくのではないかと思う。

L・P さん（男性、50 代、子どもは息子）は、単方向のみの注目であること、身体的行為に多

くの注目があるが、言語的行為の注目もあること、レベル1（楽しいこと）の注目が多いことが特徴としてあげられる。

このように同じインフォーマントの「夫婦間」「親子間」の樹の図からは、すっかり同じとは言えないが、それぞれの特徴が実の付き方によって表れている、と言える。

7. まとめ

- ①愛を感じるだけでなく、トラブルが起る場合も、注目の仕方は同じ傾向がある。
- ②早期回想を聴きとると、ライフスタイルとの関連がより明確になる。
- ③同じインフォーマントでの「型」のありようは、夫婦間のときと、親子間のときと、同じ傾向がある。
- ④インフォーマントひとりひとりの語りに、今回使ったラティスをかけることで、愛していると感じるときも、陰性感情を感じているときも、早期回想も、そして相手が変わっても、同じ傾向を個人が持っていることがわかった。

8. おわりに

前回の「愛の質的研究」では、研究の目的は2つあった。一つ目は平均的な日本人アドレリアン夫婦・親子がどういう場合に相互の間に愛情を感じるかについての特性を抽出すること。二つ目は、そのために聞き取り調査に基づく質的分析の方法を開発すること。その方法として聞きとったテキストにABCのラティスをかけて「語り」の特徴を抽出し、わかりやすいグラフ（樹の図）にすることが、有効だということが確認できた。その上で、今回の研究では前回と同様のABCのラティスを、陰性感情を持つ時、早期回想のテキストにもかけ、どのような結果となるか調べてみた。

このことによって男性の傾向、女性の傾向などグループの特徴が見えたということ、また、愛を感じる時と陰性感情を感じる時と早期回想と、個人についての同じパターンで繰り返す冗長性が見えてきたということによって、このラティスの有効性が、さらにはっきりしたと考える。

また、傾向はあくまで傾向であって、個人全体の特徴とはイコールにはならないが、インフォーマントひとりひとりの個性の骨格が樹の図によって表れると言える。

予測や仮説があってそれを実証していく、という研究ではよくある方法ではなく、テキストを観察してその中から冗長性を見つけ出す、というやり方は、筆者にとって新鮮であり、また楽しい作業であった。

このような貴重な学びの場を与えていただいたことに感謝してペンを置きたいと思う。

謝辞

快くインタビューに応じて下さったインフォーマントのみなさまに心から感謝申し上げます。

また、ご指導くださった野田先生に篤く御礼申し上げます。

そして、本研究を暖かく見守ってくださった全ての方に感謝申し上げます。

引用文献

- [1]清野雅子・河野直子：愛の質的研究, アドレリアン 25(3),p145-155,2012
- [2]清野雅子・河野直子：愛の質的研究, アドレリアン 25(3),p148,2012
- [3]清野雅子・河野直子：愛の質的研究, アドレリアン 25(3),p149,2012
- [4]A. アドラー著．岸見一郎訳：個人心理学講義．一光社 ,p83,1996
- [5]A. アドラー著．岸見一郎訳：個人心理学講義．一光社 ,p100,1996
- [6]A. アドラー著．岸見一郎訳：個人心理学講義．一光社 ,p87,1996
- [7]ハインツ・アンスバッハー , 田中貴子他訳：Social Interest という概念 , アドレリアン 5(2),p139,1992
- [8] グレゴリー・ベイトソン , 佐藤良明訳：精神の生態学 , 新思索社 ,p542-543,2000

参考文献

- 尾中映里：語られたアドラー心理学 , アドレリアン 23(2),75-93,2010
- 尾中映里：語られたアドラー心理学Ⅱ , アドレリアン 25(1),p3-17,2011
- 中島弘徳：ライフスタイル類型について , アドレリアン 20(2),p178-183,2007
- レヴィ＝ストロース , 大橋保夫訳：神話と意味 , みすず書房 ,1996
- レヴィ＝ストロース , 川田順造訳：悲しき熱帯Ⅰ , 中央公論新社 ,2001
- レヴィ＝ストロース , 川田順造訳：悲しき熱帯Ⅱ , 中央公論新社 ,2001
- グレゴリー・ベイトソン , 佐藤良明訳：精神と自然 , 思索社 ,1982
- グレゴリー・ベイトソン , 佐藤良明訳：精神の生態学 , 新思索社 ,2000

更新履歴

2018年11月20日 アドレリアン掲載号より転載